

なかま新聞

なかま新聞
編集 新聞部員
姫路市北条宮の町
215番地
TEL079-287-1025

感謝の心 思いやりの心

松も明け、寒さが厳しくなってきました。今年は申年。心配事や困り事が去るようにと願います。

『四人の妻』という
仏教寓話があります。

《ある町に四人の妻を持つ男がいました。第一の妻は彼の最も愛する女で、寒くないか、お腹は空いていないかと、とても大切にしていました。第二の妻は大変苦勞して手に入れたので、やはり大切にしていました。第三の妻とは、時々会って慰めあったり気ままを言い合ったりしています。一緒にいると互いに飽き、離れていれば会いたくなる仲です。第四の妻はほとんど使用人と変わリません。夫の意のままに働いていますが、労りの言葉もかけてもらった事があ

りませんでした。ある時、男は遠い国へ行くことになりました。第一の妻と一緒に行ってほしいと頼むと、「あなたがどんなに私を愛してくださっても、そんな遠い所へ行くのは嫌です」と言っ

て聞きました。男は第一の妻の非情を恨んで第二の妻に頼みましたが、「あなたが一番愛しておられた女性さえ一緒に行かないのに、どうして私が行けますか」と断られました。第三の妻にも頼みましたが「私にはあなたのご恩を受けていますから、町の外れまでお送りしましょう。でもお伴は嫌です」と断られてしまいました。男は半ば諦めながらも、第四の妻に「私と一緒に行くかい」と尋ねますと、彼女は「私はあなたにお仕えしている身でございます。苦しくても、また死のうと生きようとあなたのおそばを離れず、どこまでもお伴いたします」と答えました。男は日頃愛情のなかつた第四の妻を連れて旅立ちました」という話です。

さて、このたとえ話で遠い国とは死を、第一の妻は彼自身の肉体、第二の妻は財産、第三の妻は肉親や友人を意味しています。そして第四の

妻は彼の心です。

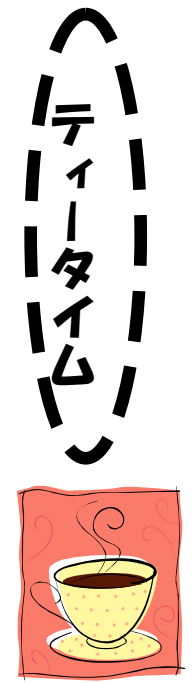
私たちは自分の身体を大切にしますが、いずれ滅びてしまいます。財産や家族も大切ですが、永遠に所有することはできません。しかし心は永遠です。死後、残された人たちの心に引き継がれていきます。人間としての存在価値はその心の中にあります。

日頃、私たちは目に見える物について、感謝する心、人を思いやる心を忘れず持ち続けたいと思います。皆さま、本年もよろしくお願い致します。

長谷川 和宏



新年を迎えた総社 岩村和雄



去年の暮れに、絵手紙教室で描き始めた作品で、今年のカレンダーが出来上がった。絵自体は未熟で恥ずかしい限りだが、ワークハウスあけびで仕上げてもらって、私にとっては、去年一年間の足跡のような気がする。

85の手習いで始まったあけびでの絵手紙教室。色を塗っていると、小学校一年生の頃の図画の時間に、赤のクレヨンで花びらをベタベタと塗りつぶしていたら、「それじゃ駄目だ。花の伸びる方向に色を塗りなさい。」と言われた事をふと思い出す。

そんな事を思いながら、絵手紙教室で、筆の穂先を使って生きている花の感じを出そうとするが難しい。そんな時に、金川先生が私の絵にちよつと筆を入れられると、絵が引き締まりその絵に活力が出て来る。今年のカレンダー一枚一枚に、指導してもらった箇所が思い出される。

昭和は遠くなりけり、今年も早くも平成28年だ。年頭に当たり今年も色々な画材と向き合い、描きためた絵で来年のカレンダーが出来上がることを楽しみに頑張りたいという気持ちで一杯だ。

岩村 和雄

中間の吉

お正月の風景

西本 洋子

私の子どもの頃、年の瀬ともなると大掃除に正月飾り、そして餅つきと大人も子供も大忙しでした。

新年を迎えると、家族揃ってお節料理やお雑煮をいただきました。そして子供たちは独楽回しに凧揚げ、羽根つき、それに双六遊びなどに興じていました。

子どもごころに、お正月は一年のスタートということ、わくわくしたものです。近頃では、正月よりクリスマスの方が賑わっているように感じられ、少し寂しい気がします。いつの時代になっても正月は、新しい気持ちで迎えたいものだと思います。



我が家の大晦日

池田 堯行

早いもので、私が「パーキンソン病」になって4年半になります。それ迄は、大晦日の深夜に近所の津田神社にお参りするのが、わが家の仕来りでした。その時は、孫も一緒に参っていました。神社ではミカンと甘酒のご馳走でした。

しかし、それも「パーキンソン病」のため、私が行くのを辞めましたので、孫も家内も、私と同じように行かなくなりました。

私も、早く病気を治して、お宮参りが出来るようになりたいと思っています。大晦日は、冷えることはあっても、雨は比較的になく、これも神様のお蔭だと思います。

お正月の歌

寺下 典子

♪もういくつ寝るとお正月
♪早く来い来いお正月

この歌声も聞かれなくなりましたが、私の小さい頃は歌のように嬉しいものでした。母はいつもモンペ姿で田畑へ出



掛けて家に居なかったのですが、正月だけは真っ白いカッポウ着姿で、台所でコトコト煮物のお煮べを作っている姿がありました。その恰好が大好きで、母に付き纏っていたのを覚えています。

ダンス

佐橋 けい子

平成二十五年秋に「あけびの実」に入れて頂きました。それから遡ること、十六、七年前の頃から下手の横好きで社交ダンスのグループに入っていました。けれど、まさか「あけびの実」でダンスのグループが在ったとは全く知りませんでした。私も参加させて頂くようになって三年近くになります。最近では「あけび」からも、お二人の女性が参加され楽しくレッスンしていらっしやいます。

このようなことが出来るのもボランティアの吉原さんやスタッフの皆さんのお蔭と思い、いつも感謝の気持ちで一杯です。ゆったりとしたブルース、優雅な



ワルツ、メリハリのきいたタンゴ、キュートなサンバ、リズムカルなジルバ、どれも楽しい踊りです。この文章を書いているうちに、今年目標が見えてきました。「出来る限り体に気をつけて、ダンスを続けること」にします。

卓球(ピンポン)

中谷 紀子

あけましておめでとうございませう。今年の抱負は卓球をもう少し上手くなることです。

昨年よりサーブの仕方、ラケットの持ち方も教えてもらって『ピンポン』だったのが少しはラリーが続くようになり面白くなってきたのでラケットも買いました。

これからも転倒に気を付けながらピンポンから卓球に上達できるように頑張っていこうと思っております。そうすることがリハビリ効果を得ることになり体を動かしやすいくなる、という一石二鳥を狙って。